



世帯数	5,910戸
人口	14,499人
(平成28.3.1現在)	

「I LOVE 寿」地域会



寿小学校の児童会は、1月27日、登下校時の見守りや児童の学校生活を支える活動を推進する「寿地区学校応援団」の関係者や地域の皆さんに感謝の気持ちを伝える「I LOVE 寿地域会」を校内で初めて開催しました。



応援団を構成する、町会連合会・町内公民館長会・民生児童委員協議会・しめ縄作り講師陣・子どもを守る安心の家など、36団体145人が登録され、学習支援や交流活動を続けており、そのうち約100名ほどが出席しました。

最初に全体会を体育館で行い、各学年ごとに地域住民が関わった活動の発表をしました。お手玉交流やクラブ活動支援、里山体験活動、しめ縄作りなどの写真を投影したり実際



にお手玉を披露したりして、活動内容を発表報告しました。これらの活動は、年間で104回、延べ8000人の児童と延べ2000人の地域住民が関わりました。最後に児童全員で校歌を合唱し参加者にプレゼントしました。

続いて、1年生から6年生までの9クラスに、それぞれの関係団体の参加者を招いて、様々な企画で、感謝の会を開いてくれて交流を深めました。9クラス全部を見ることは出来ませんが、私が招待された「6年4組の場合」をお伝えします。最初に金管バンドに所属している児童による演奏がありました。金管バンドの発祥は、寿小学校90周年事業で鼓笛隊が作られましたが、それが基となっていて、(当時私は4年生でした。)次に、「何でも鑑定団」と「水戸黄門」のテレビ番組を組み合わせた、演劇を披露してくれました。(あらすじ)寿小学校の校章が入った玉手箱が鑑定に出品されました。ところが江戸時代の水戸黄門様の時代へタイムスリップしてしまい、危険な目にあつたりしながらも、玉手箱を守ってまた現代に戻ってきました。その玉手箱の中には、子どもたちが作った絵手紙がプレゼントとして入っていました。プレゼントに感謝感激で嬉しかったです。

楽しかった交流会もあつという間に終了しました。感謝の気持ちは十分に伝わってきました。寿地区学校応援団総会の開催



寿地区学校応援団総会が、1月27日、寿小学校視聴覚室で開催され、27年度の事業報告および次年度の取り組みについて確認を行いました。総会の中では講演があり、「寿小学校の様子」と題して、三好校長先生から、「筑摩野中学校の様子」と題して、藤田校長先生から、それぞれお話をいただきました。(館報編集委員 清水 壽雄)



この表彰制度は、スポーツ功労者として、加盟団体である寿体育協会が推薦し、松本体育協会の理事会で審査の結果、表彰が決定されたものです。

寿体育協会において、赤羽氏は平成17年から事務局次長、事務局長、推薦理事として、今井氏と小笠原氏は平成17年から推薦理事として、現在も活動を牽引していただいています。これからのさらなる活躍に期待します。



松本体育協会 精励表彰受賞
寿体育協会理事の赤羽武史氏(赤木町会)、今井正氏(百瀬町会)、小笠原圭司氏(百瀬町会)の3名が、昨年12月10日に、平成27年度松本体育協会精励表彰を受賞いたしました。

心を癒すコンサート



寿地区人権啓発推進協議会と寿公民館主催の人権講座「心を癒すコンサート」が2月20日に寿公民館にて開催されました。

前半は誰もが知っているジブリ映画の主題歌からクラシックに至るまでの全10曲が、宮島祥代さんのピアノ伴奏と大和由佳さんの独唱で披露されました。後半は寿小学校5年2組が舞台に上がり、長期間練習してきた成果としてコーラス、リコーダー演奏そしてダンスの学習発表が行われました。朝の連続テレビ小説『あさが来た』でお馴染みの主題歌が歌われると、会場に集まった約90名の参加者も一緒に口ずさんでいました。



和やかな雰囲気の中で心が癒される午前のひと時を過ごすことが出来ました。(館報編集委員 百瀬 肇)

わがまちこの人

寿田町の杉浦信治さんをご紹介します。杉浦さんは自動車会社を立ち上げ、今現在は引退をされて趣味で菊作りや野菜作りなどして、



昨年は見事な菊を寿地区の文化祭に出展されました。また町会活動にも長年取り組み今でも積極的に参加しています。杉浦さんに菊づくりのきっかけを聞いてみました。

「何時かは、菊づくりをしてみたいと以前から思っていました。なかなかチャンスがありませんでした。しかし、定年を迎えた時、それまでの仕事が自動車関係でしたので、北陸信越運輸局から表彰状が戴けるとのことです。新潟市のホテルに行くことになりました。そして11月1日の早朝に新潟市に向かい、まず彦神社にお参りに行きました。

その時境内では菊花展が盛大に行われていてとても感動しました。見れば見るほどに花の大輪に興味を湧いてきて係りの人に夢中になって作り方をお聞きしました。係りの人が「菊づく

りは子育てと同じだ。手間暇がかかるよ。」と、アドバイスしてくれました。

家に帰ると早速日本園芸協会に苗を10種類ほど注文したところ翌年の5月に届きました。育て方の本を読みながら土づくり、肥料、病気、アブラムシなどど戦いました。消毒や水やりも大変でした。また、菊の成長に伴い一本仕立てから、二本、五本、七本仕立てと色々な作り

方があります。菊の成長によって毎日手をかけなければならなく目が離せません。また、9月頃には支柱、10月には輪台や脇芽などの芽かきなどで大変です。しかし、1



年かけて大輪の花が咲いたときは全身が震えるほど感動をします。それまでの苦勞も疲れも消えてしまします。昨年は20種類になり100鉢ほどになりました。今年もはダルマ作りや福助作りにも挑戦したいと思っています。苗の欲しい方には無料で差し上げたいと話されていました。(館報編集委員 菅田 金幸)

「ホテルみたいなところで開催してもらい楽しくいつでも来られる。」との感想があり、非常に好評で終了す

平成27年度 寿地区 地域福祉を語る会

3月2日に平成27年度寿地区地域福祉を語る会が開催されました。会の中では各専門部会(6部会)から一年間の活動報告及び松本大学の佐藤准教授の講演、南東部地域包括支援センター職員の活動報告が行われました。

高齢者福祉部会の発表の中で「こんなやり方もあるのか」と紹介します。福祉ひろばが行っている「ふれ健」について、高齢者から「規模が大きく参加しにくい。遠くに参加しにくい。足がない。」という意見がありました。そこで高齢者に多く参加してもらうにはどうすればよいか検討し、「こちらから出向いて行つてはどうか」という結果となりました。そのため、試験的に竹沢町会の新公民館をお借りして開催したところ、高齢者から「ホテルみたいなところで開催してもらい楽しくいつでも来られる。」との感想があり、非常に好評で終了す



る事が出来た。今回の活動をもとに「もう少し進化した内容で今後の活動課題を考えていきたい。」との発表がありました。障がい者福祉部会では「障がい者と接する機会が少ない」という意見から、障がいをお持ちの方を講師としてお招きして講演会を開催した。また、福祉ひろばでのボランティア講座にも参加をし、障がい者の方の現状が把握できた。今後の活動の方向性が見えた。」との発表がありました。

他の専門部会の発表についても、課題の掘り起しや問題解決など活動の方向性をしっかり定めて活動している様子が伺えました。

次に南東部地域包括支援センターより、寿地区の地域包括ケア会議についての活動報告がありました。最後に佐藤准教授による講演



会が行われました。今回の講演会のテーマは「寿らしい地域づくり」話しいから気づき 気づきから〇〇〇〇の内容で行われました。その内容は、配られた発表資料の中に付箋が貼つてあり、「近所」「町会」「地区」について葉っぱの付箋には「いいところ」を、豚の付箋には、「こんなのがあればいいな」を記入しました。記入したものを思い思いに模造紙に貼り、みなさんで内容を確認しました。地域のみなさんで内容を共有することができ、佐藤先生から「記入した付箋は今後のテーマの題材資料とします。」との説明がありました。

佐藤准教授には一年間担当していただき、「私自身もいろいろなさんから教えてもらうことが多くあり勉強になりました。」という感謝の感想を頂きました。

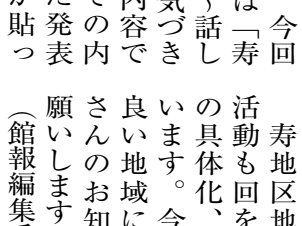
最後に塩原副会長長の挨拶にて会を終りました。



寿地区地域づくり協議会の活動も回を重ねるたび、内容の具体化、充実化が図られています。今後も寿地区をより良い地域にするために、みなさんのお知恵と活動支援をお願いします。(館報編集委員 鈴木 喜朗)



最後に佐藤准教授による講演



会が行われました。今回の講演会のテーマは「寿らしい地域づくり」話しいから気づき 気づきから〇〇〇〇の内容で行われました。その内容は、配られた発表資料の中に付箋が貼つてあり、「近所」「町会」「地区」について葉っぱの付箋には「いいところ」を、豚の付箋には、「こんなのがあればいいな」を記入しました。記入したものを思い思いに模造紙に貼り、みなさんで内容を確認しました。地域のみなさんで内容を共有することができ、佐藤先生から「記入した付箋は今後のテーマの題材資料とします。」との説明がありました。